

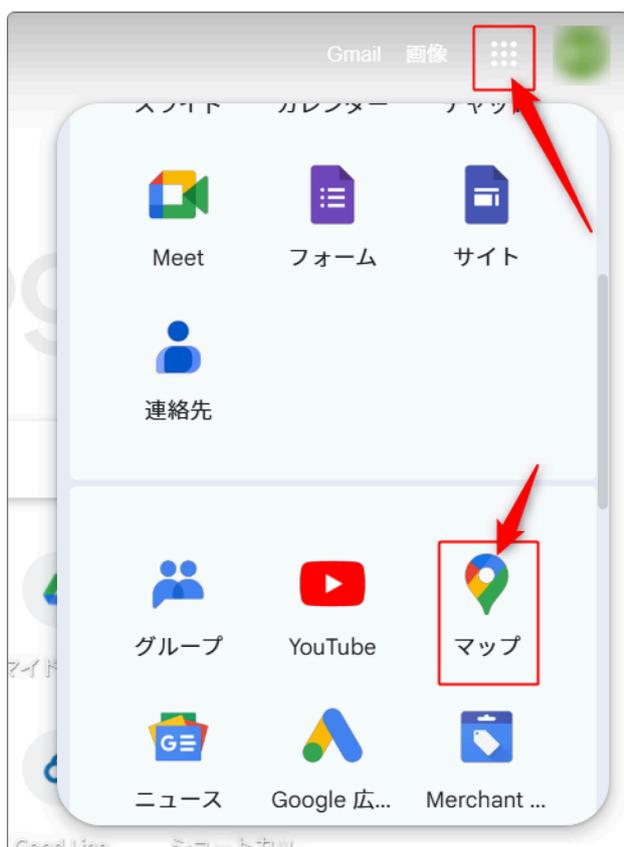
Google マップ を挿入してみましよう

2025/03/17
2025/04/18 改

サイト内に Google マップ をサイトに埋め込み、地図を表示する方法です。
マップを埋め込む事で、スマートフォンやタブレットなどを使って目的の場所に簡単に行くことができるようになります。

1. Google マップ を起動しましょう

※パソコンでの作業をおすすめします。



パソコンのブラウザで Gmail や Google 検索などを起動します。

右上のアカウント画像の左横に  「Google アプリ」のボタンがありますので、それを押下します。

アプリの一覧が開きます。
その中から「マップ」のアイコンを押下します。

※アイコンの表示順は人によって変わります。

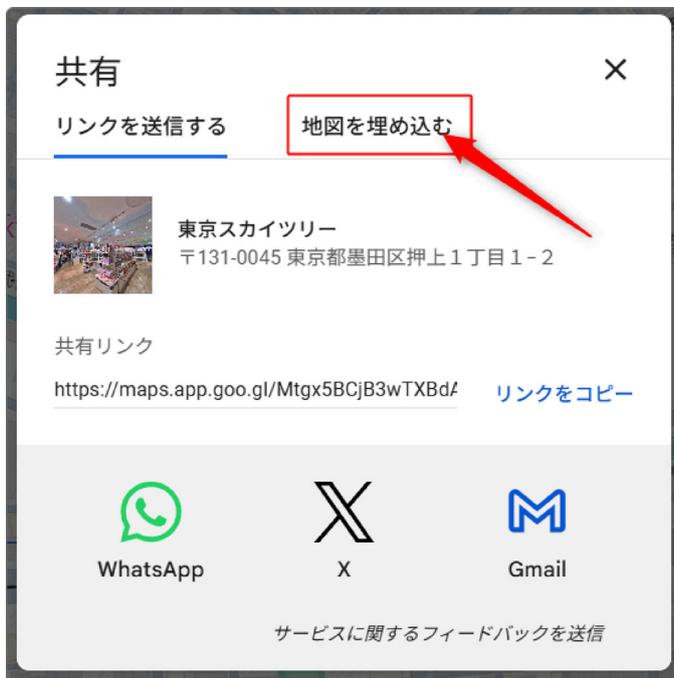
2. マップで目的地を検索

Google マップ が開きますので、サイトに埋め込みたい目的地を検索します。

マップが表示されたら、その中から「共有」というアイコンを押下します。



3. 埋め込むタグを取得



共有のウィンドウが開きますので、「地図を埋め込む」のタブを押下します。

共有用のHTMLが表示されますので、「HTML をコピー」を押下します。



青枠の部分の文字色が青く変わって選択されたことを確認してください。

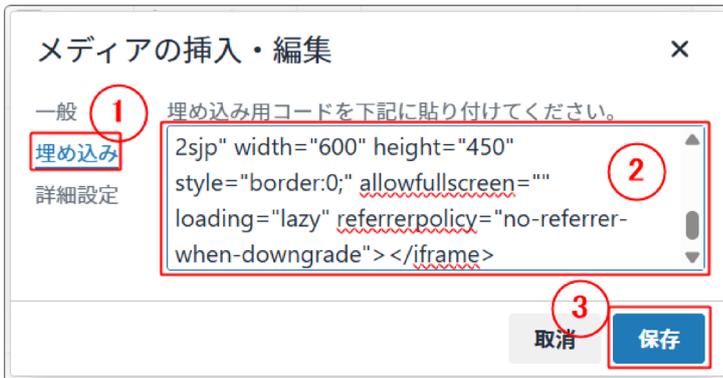
クリップボードにコピーしました

正しくコピーされると、上のように表示されます。

4. サイトに埋め込み準備

次に、固定記事のプラグインを設置し、編集モードにします。

 (メディアの挿入・編集) のアイコンを押下して開くタグの中で、「埋め込み」を押下します。

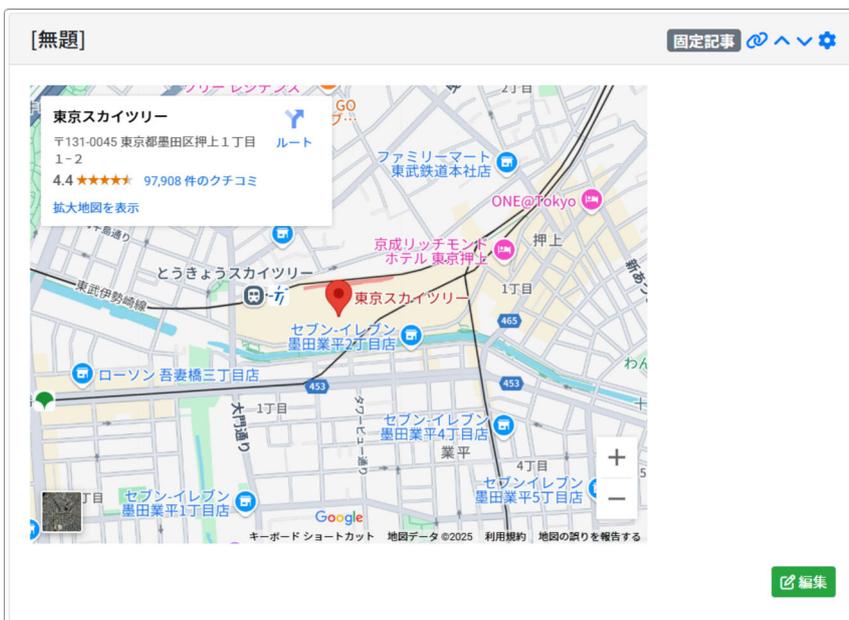


① 「埋め込み」のタブを押下します。

② 先ほど動画からコピーしてきた埋め込みコードを貼り付けます。

③ 「保存」を押下します。

フレーム内にマップが表示されます。



ただし、このままではマップの大きさが固定されており、レスポンスに対応されていません。

5. マップをレスポンスに修正

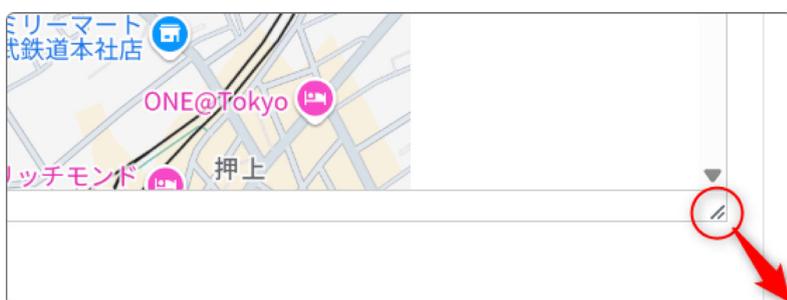


このままだとパソコンで見たときには前ページの図のように右側に空白ができ、さらにスマートフォンやタブレットなどの小さい画面で見た時には、左図のように右側が切れてしまって、目的地が横にスクロールしないと見られなくなります。

そこで、マップの初期画面で目的地を中央に表示されるようにレスポンス対応に修正します。

※レスポンスとは
PC、タブレット、スマートフォンなど、異なる画面サイズに合わせてWebサイトの表示を調整する手法です。

再びフレームを編集モードにします。



この時、画面が小さいと編集しにくいので、画面右下の を下に引っ張って埋め込んだ地図がすべて表示されるように調整しましょう。



編集しやすい大きさになったら、地図の右側の空白のどこか任意の場所を押下します。

すると、地図の右下にカーソルが表示されて点滅します。



そのままキーボードの「←」を1回押下します。

地図の周囲に青い枠が表示され、四隅に■が表示されます。

(これは、地図、すなわち画像を選択した状態です。)



さらにもう一度キーボードの「←」を押下します。

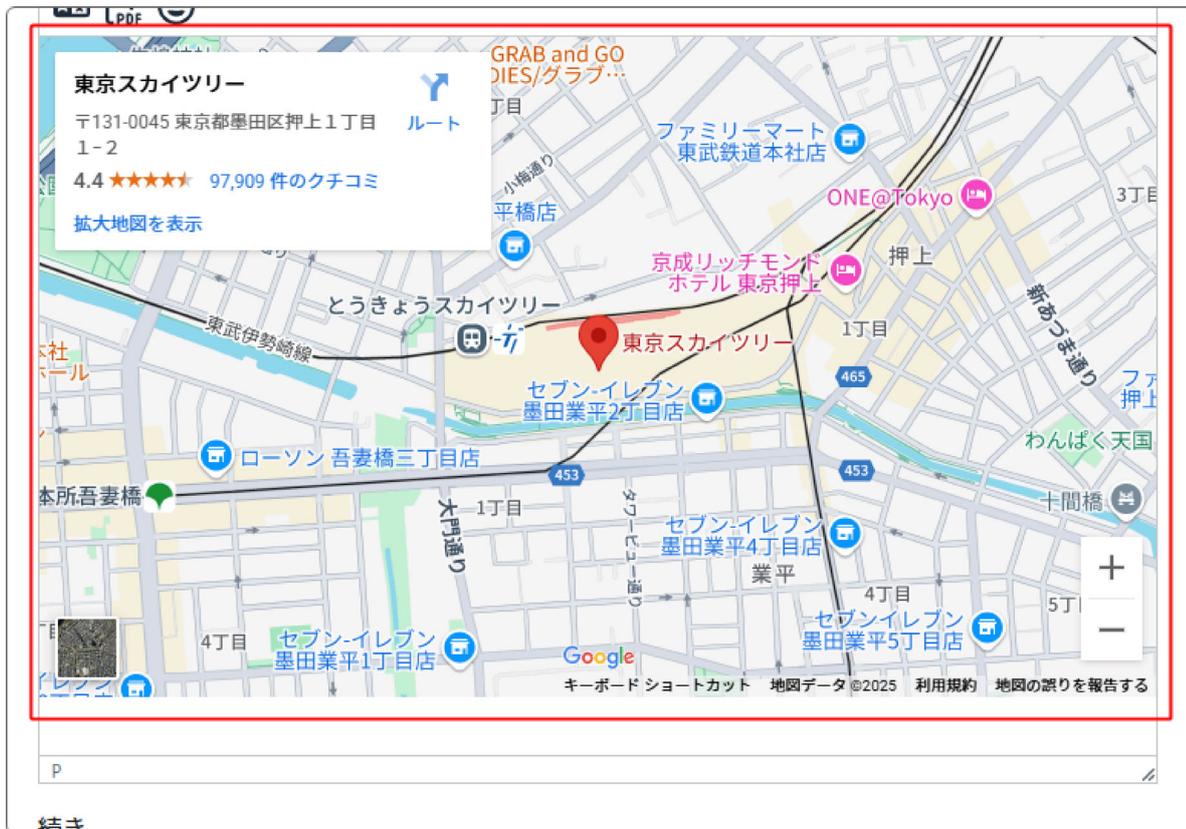
今度は、カーソルが地図の左側に移動して、そこで点滅します。

(つまり、地図右側にカーソルがあった状態から2回「←」を押下します。)



カーソルが地図の左側で点滅している状態のまま、今度はメニューアイコン一覧の「段落」の「▼」を押下し、開いた一覧の中から、「埋め込み用レスポンス縦横比 16by9」を押下します。

フレーム一杯に地図が表示されたら成功です。



✓ 変更確定

を押下して確定します。

◆PCで見た時



◆スマートフォンやタブレットで見た時



このように、それぞれの画面にあわせた大きさの地図を埋め込むことができました。

もし、うまくレスポンスにできない場合は、再度編集モードにして、「[再びフレームを編集モードに...](#)」からやり直してみましょう。